

昭和57年7月7日(水)

酒々井町 郷土研究会報

第25号

昭和57.7.行
酒々井郷土研究会
総務部

○○新田と云はれる地名が酒々井町にも多い。これは大体江戸時代に開墾された頃の地名だと云はれる。下岩橋に東新田西新田の小字があるが寛永八年(一六三二)の水帳にはこの地名がないのでそれ以後の開墾であることがわかる。

新田は享保十七年(一七二六)頃の新田検注に依るものが最も多いと云われるが上岩橋の小山作の新田検注も享保十六年(一七二五)である。伊藤新田は承応二年(一六五三)の水帳では上岩橋に依て作成されており上岩橋に依る開発新田であることがわかる(酒々井町史料集)。○右エ内新田などと人名をつけた地名は個人の資本で開墾をされた処であり○村新田は村の又、江戸時代初期の開墾地を古新田と云ふ地方もあると云ふ。

新田という地名の外に尾上の堀地開墾の高野台などの地名はもと古い時代の開墾地を表す地名ではないかと思われ、高野は幸谷とか兴野と宛字する処もあるが本末は荒野のことだと云はれる。

天文年間(一五三二~一五四四)北条氏が発行した文

書に「新宿興行につき七年向荒野申付ける」とあり、これは七年间は荒地として取扱いその面積税を免除すると云う意味で、開墾地に對しては江戸時代も減免措置があつたようである。

尚、里主の高野台に就いて故藤崎氏は墨跡で牧の馬小屋があつたので小屋台といつたものが高野台となつたのだと記している。

和製漢字傑作集

福田富藏

祥	嶺	嶺	嶺	嶺	嶺	嶺	嶺	嶺	嶺	嶺	嶺	嶺	嶺	嶺	嶺	嶺	嶺	嶺	嶺
かみしも	かみしも	かみしも	かみしも	かみしも	かみしも	かみしも	かみしも	かみしも	かみしも	かみしも	かみしも	かみしも	かみしも	かみしも	かみしも	かみしも	かみしも	かみしも	かみしも
衣と下	山と下																		
衣の上着	山を登りつめて下りにかかる境目																		
天	文	年	間	(一	五	三	二	一	五	五	四)	北	条	氏	が	發	行	し

慶應義塾大學放送佐藤一郎先生著

昭和57年7月7日(水)



馬と船

相京晴次

馬と船は江戸時代の輸送の面横綱でありました。酒々井が成田街道の宿場町として栄えたことは一般に知られております。宿場は人が泊つたり、休んだりするばかりではなく、荷物や薪炭その他の生活物資の宿継をする任務もありました。当時の道路は狭く、坂が多く、雨が降れば必ずみとなつて、山道同様でありましたから車は使えません。背負つたり、オッパリするか、馬の背に乗せて運搬するほかはありません。現代では想像できな、程の困難がありました。例をあげると、酒々井町・村(邑)の石高は七七〇石余でありますから三百石となります。これを俵に直すと約七五〇俵となります。この年貢を馬で運ぶと一駄二俵づけとして佐倉城の推、木御蔵まで運搬すると三百七十五往復することになります。酒々井がら佐倉城までは約五キロ、一日二往復が精々です。年貢米を納めるたゞでもこんな困難がありましたがので、陸運では遠い所へ運搬は出来ないので、幸に酒々井町は印旛沼に面して柏木、大就厚、中川、新堀河岸と港を作られて、江戸、銚子、利根川筋と高瀬舟を利用しての商業活動が行わされました。高瀬舟は米、薪炭、林木等を大量に積み込むことが出来たので、柏木に相京又右衛門、大就、小坂新兵衛、中川木内常三郎、新堀鶴岡造酒右衛門などの向屋が出来て繁榮したと伝えます。

酒々井から江戸までの行程は十日あまりであります。町史料集収録の島田家文書から船運の例をあげてみましょう。

一、御米三拾俵儀式升
御扶持米送狀

右を通り津玄候着船ニ相成候ハ、改可被請取候依之送狀如件

慶応四年二月十九日

綿母貢夏右衛門

鳴田幸右衛門殿

右御米布施川岸向屋坂巻半平より別紙送り状運
ちん安食川口帶リ候共金走面式分相定、常川
鋸田捨五郎船江積入三月六日酒々井川岸着ニ
相成、久能、新橋江通連いたし貢目相改、
不残引取、運ちん船主江相渡。

この文書は佐倉牧士嶋田幸右衛門(酒々井藤崎半右衛門(久能)藤崎半之丞(久能)佐瀬為吉(新橋)の扶持米(給料)一年分を小金(松戸市)の貢貢夏右衛門から届けられたものです。布施(柏市)川岸から鋸田(茨城県)の常五郎の船に積んで利根川から安食を通じて酒々井河岸へ七日目に着、船貨は走面式分(あつてこ)とがかります。この運賃は当時の米相場一石位に当り高い運賃となつています。それでも陸送に比べれば安い運賃であります。



昭和57年4月7日(水)

町内史跡めぐり（六月二十日）

定刻九時、酒々井駅東口に集つたもの小学生九人を含めて三十四名、中央台、東酒々井から参加され初対面の人も多く賑かに発する。東酒々井住宅街の空地の芝生の中に、ねじり花(もじり)の可憐な花が所々に見受けられる。

大室台小学校を左に見て坂を登ると尾上の台地である。通称平石と云れる三叉路には普門品三万部供養碑がある。道標を兼ねた塔碑であり、昔の人達の信仰の深さに思いをはせらる。

尾上木二淨水場の前でしばし歩をとどめる。こゝは酒々井町道路の元端めであることをきく。さうに進み坂を下りまつた十字路を岐川が流れている。東関東自動車道とくぐると高崎方面にも普門品供養塔と石仏があり。

ここにかかる橋のたもとに「釣糸原」の群落がある。秋十月に乍ると美しい花を咲かせることであろう。

この橋を渡ると飯積である。一行本部落の人口で左ニ曲り日へ日市場道に入る。三・四百メートル過ぎた村外れの三叉路に町指定文化財「飯積の道標」を訪ねる。上部には地蔵菩薩が刻まれ下部が道路標と在つていて、「後是八日市場道」とあり、昔はこの通り八日市場街道であつたことを教えてくれる。

伊豆神社へ子安神社へに詣で、背後の町指定文化財「飯積の大杉」を見る。案内板によると推定樹令六百年、酒々井最高の樹令と云う。

神社前の青年館は飯積の左近、藤川の両辰老がお茶の生産を始めたので、下さる。而寧意に甘え一同菴菴の接待をうけける。暫く休め、後食積の地名の由来をききながら泉福寺の石仏群を見て、東側道を古沢に向つ。この道は東関道によつてお来た道で、人家はなく野草の観察には好適であつた。うつむつぐさ、ビクビクしながら歩くうち、まづ左の花園、などは花園、いざり、数本づつ採取する。婦人もいて賑わひだつた。

高野台橋、古沢を通り、登食子定の里生館に到着。やれやれれたの虐待。里生館では里生区長朝増さん夫人、清水夫人がお茶の準備をされており、お新香やメロンの接待に預り一同懇親會す。

午後は草木所神社境内の「さりしなしようま群生地(町指定)」の生育状態へと観察後、高野台を通り尾上正福院に至り、ここより裏山伝いに第二淨水場前にて午後二時半ごろ解散となつた。今日の行程は終了した。

鄉土石井 日誌

4月10日 古文書学習会 参加者 11名
 4月12日 石仏調査(下岩槻) " 12名
 4月17日 山菜を食べる会 準備会 8名
 4月18日 文化歓愛護活動 午前9時より
 1.墨六渓神社境内さらしなしよう
 ま群生地草刈作業 9名
 2.伊藤木並木枯木伐木、焼
 却、支柱木直し 参加者 15名
 4月24日 山菜を食べる会 中延公民館にて
 全員参加者64名 招待者10名 計74名
 5月8日 古文書学習会 お席者 9名
 5月9日 石仏調査(下岩槻) お席者 9名
 5月15日 野草の会 日本の史跡探訪を兼ね
 て行う 参加者 20名
 5月25日 銚子方面見学会 AEE 37名
 5月28日 " BEE 35名
 6月8日 深大寺~神代植物園 ~弓削
 岐凌見学会 白幡レンターバス
 三台 参加者 28名
 6月12日 古文書学習会 参加者 11名
 6月13日 石仏調査(柏木) 参加者 6名
 6月15日 運営委員会 や3・4半期行
 事計画決定会 古事記16名
 6月20日 町内 史跡めぐり尾上、飯坂
 墓方前 参加者 34名

麻綿原高原は清澄山系にある紫陽花の名所として知られています。今日は野草の会の発起で清澄山から尾道四ヶ口徒步一時間の行程で山草を観賞しながら麻綿原を訪ねることになりました。A班、B班、C班と二回めにお申入ります。早見学會だよ。) 麻綿原高原へ

九月の月見
区の博物館と城跡主としたチーズとなりました。市川博物館は考古文
物館、荒山郷土館は近世の鎧、刀剣等が多く展示されています。
増尾城址は中世城址ですが、最近城址公園として一般公開されています。
したがって、十兵衛城は沼南町の農家の主人が独立して作つた城であります。
秀穂音は平将門の守本尊聖觀音を祠してあります。伝説ある

(○) 長らく会報を手がけて頂きました、真子さん
が転居され残念でなりません。会長を始め
会員一同心より厚く感謝申上げる次第です
ゆ一家の御多幸を祈念してゆれにかえさ
せて頂きます。



郷土研究会報

項目	七月	八月	九月
古書学習会	10日(土)午後1時30分 中央公民館	休:	11日(土)午後1時30分 中央公民館
石仏調査	11日(日)午前9時 中央公民館前集合 雨天中止	29日(日)午前9時 中央公民館前集合 雨天中止	12日(日)午前9時 中央公民館前集合 雨天中止
史談会	17日(土)午後1時30分 中央公民館 テーマ酒々井町の民俗	21日(火)午後1時30分 中央公民館 テーマ酒々井町の民俗	18日(土)午後1時30分 中央公民館 テーマ酒々井町の民俗
野草の会	7月20日 A班・22日B班 小中学生も可 麻綿原高原・清澄山より徒歩往復8km 8時30分役場去登 各35名 (雨天決行) 会費1,000、中食代含む	8月は 休:	父日(土)午後1時 京成酒々井駅集合 志津方面観察会 雨天中止
文化財愛護活動	7月18日(日)午前9時 青年研修所集合 上岩橋見層・カシカシムロの草刈り	7月18日(日)午前9時 青年研修所集合 上岩橋見層・カシカシムロの草刈り	当日雨天は7月25日(日)
郷土史講座	7月24日(土)午後1時30分 中央公民館 「酒々井地方の古代文化」講師 司史綱さん委員 北詰栄男氏		会員以外の方も 御説教下さい
県内史跡見学会	9月21日(火)A班 9月24日(金)B班 見学地 市川博物館-流山郷土館-十兵衛城-増尾城跡-日秀観音	午前8時30分役場去登 各先着35名づつ	会費1,000-中食代含む

新入会員の紹介

- 314 国野せん
- 315 渡辺節子
- 316 近田トメ子
- 317 高橋清子
- 318 福田チカ
- 319 藤山勝以
- 320 植名千代
- 321 長沢とも子
- 322 福田芳江

会計報告

○ 山菜を食べる会 4月24日
收入 会費 500×6人 = 3,000.
支出 材料に合計 2,000.
差引 1,000. 郷土研収入水
○ 銀子方面見学会 A,B班 5月26日
收入 会費 A37人 B35人 1,000×72人 = 7,200
支出 バス代 8,000×2 = 16,000
料金代 500×72人 = 36,000
料金代 400×2 = 800
飲料 100×80 = 8,000
満願寺料 500×2 = 1,000
計 72,000.
不足 ￥2,300- 郷土研より補助
○ 深大寺方面見学会
收入 会費 3,500×98人 = 34,300.
支出 バス代 3台 18,000
運転手代 3,000×3人 9,000
満願寺料 1,000
料金代 3台分 1,250.
計 37,500-
差引 費用 ￥44,500- 郷土研収入水